

鶴ヶ島市立藤小学校学校運営協議会議事録

会議名 令和4年度第3回鶴ヶ島私立藤小学校学校運営協議会

日時 令和4年11月15日（火曜日） 11：30～12：25

場所 会議室

委員（◎出席6名 □欠席4名）

1 開会のことば 教頭

2 会長あいさつ

校長あいさつ

- ・平日開催ですが参加いただきありがとうございます。
- ・本日開校記念日。スタンプラリー延期の経緯について。
- ・2学期の教育活動スムーズにできています。

3 協議事項

（1）2学期の教育活動について〈校長〉

●詳細は別紙資料参照

- ・コロナ禍の対応のために工夫して取り組んでいる。（感染拡大防止の視点で）
- ・アプリの導入により、保護者の電話連絡が減っている。
- ・欠席児童へオンラインでの授業提供
- ・保護者へのオンラインの実施（授業参観や個人面談等）
- ・縦割り清掃について・・・6年が中心になって自問清掃の取り組みをしている。
学校応援団の方にもご協力していただいている。
- ・運動会について。
- ・スタンプラリーについて。
- ・6年の取り組み→市議会議員さんの協力をいただいた。
- ・オリンピアの佐藤先生を招いての出前授業。全校児童に走り方の指導をしていただいた。
- ・連合運動会は中止になったが、藤中の陸上部が6年生に教えにきてくれた。
- ・環境美化活動について。
- ・あいさつの取り組み。（相手に伝わるあいさつを）
- ・各種学力調査の結果について→5年生はあまり伸びていないが6年生は伸びている。
- ・学び合い学習の推進について→夏休みに研修を実施した。
課題・・・聴き合える関係づくり、探求的な課題づくり
- ・ICT機器の活用について・・・道具として使えるように取り組んでいる。
- ・読書量について・・・学調の結果から読書量が少ないことが分かった。その結果から次の手立てを考え実施した。
①電子図書（ヨモッカ）の導入(9月から)。
その結果、読書量が激増した。
②ビブリオバトルの取り組み。（授業の中で）
- ・校務の効率化・・・ICTを活用した情報の共有（個人情報を含まないもの）
学校だより等をメール配信のみに（紙での配布を止めた）

※資料にはないこと

●来年度の教育課程について

- ・来年度、午前中に5時間40分授業を行うことを検討している。
- ・午前中に授業を行うと児童の集中力が高い。
- ・放課後の児童の生活にゆとりが生まれる。
- ・午後の空いた時間をつかって教材研究をして学力向上を図ることが一番のねらい。

(2) 授業参観・児童の様子についての感想・意見交換

A：静かに先生の話聞いていた。すごく落ち着いていた。

どこのクラスもタブレットを使っていた。みんなタブレットになじんでいて、今後子供たちは苦勞することなくタブレット使っていけるだろうと思った。

教室・廊下が整理されていた。教卓がなかったので広々とした印象を受けた。もう少し空き教室があるといろいろできそうでいいなと思った。

(3) 前回の地域連携協議のまとめより今後の取り組みの在り方について〈教頭〉

配布した資料から

●気になるところ

- ①低学年の教室のざわつき⇒なくなっていた
- ②マットがやぶけている⇒新しいものに交換済み
- ③先生によって子供に集中させるのが難しい⇒今後研修を重ねていく
- ④タブレットの入力速さの差⇒全体的によく使えるようになってきている（日々成長している）
- ⑤施設設備について⇒子供も大人も整理ができるようになってきた。
- ⑥授業時数について⇒毎月確認しているので大丈夫。

●今後取り組みたいこと

- ①集合場所に行ってあいさつをする。⇒取り組めてはいない。
- ②中3の生徒との連携（登校の見守り）⇒安全面から実施は難しい。条件整理が必要。
- ③縦割り清掃に地域が参加⇒実現済み。児童と応援団さんの交流が進んでいる。
- ④福祉活動体験⇒オンライン等を活用して実施も検討していけたら。
- ⑤子供のちょっとしたお手伝い⇒家庭学習を活用した取り組み。
- ⑥タブレットの使用方法を教える⇒家庭の中で子供が保護者に教えられるようになるほど、児童にとっては文房具として日常的に使う道具となっている。
- ⑦縦割り活動に中学生も入る⇒今後中学と相談していけるとよい。
- ⑧共栄連合で児童とあいさつの取り組み⇒自治会活動で子供と関わることがほとんどないのが現状（コロナの前は焼き芋等を実施したが、未就学児の参加が多かった。つまり小学生はほとんど参加していないのが実態）
- ⑨中学生生活体験⇒面白いがコロナで実施が難しい。
- ⑩スクールガード体験⇒6年生が多忙なので、可能な範囲で実施できたら。

●地域連携を進めるために必要なこと

B：地域の繋がり⇒年齢差がありすぎて関わる糸口がみつからない（孫以下の子供たち）

今年度は学校のお便りを郵送ではなく、子ども郵便にしてくれたので繋がりを持つきっかけとなった。

ペーパーレスの話⇒町内会は紙での回覧のほうがありがたい。（URLは入力が大変）

C：HP更新はどなたがされているのか？→校長が行っている。

ICTの活用も市内でもハイレベルなので今後持続していけるのか？

→うちの学校の先生たちであれば、誰でもできる。今後も引き継いでいける。

→スタンダード化を進めている。（誰でも同じ様に指導できるようにするため）

D：学校に協力できる団体は「学校応援団」が一番手っ取り早い→よろしくお願ひします。

E：ミーティングでの読み聞かせも実施している。自宅の児童へも本を紹介できる良さがある。

来年度、新日課に合わせ読み聞かせの実施方法を学校と相談中。

F：あいさつは低学年の子供のほうがあいさつしているように感じる。

登校班の集合場所に行って、子ども郵便のお礼を伝えた。話しかけると、子供たちが話を返してくれる。大人から積極的に関わる工夫をしていく必要もある。

〈教頭〉昨今の状況だと、知らない人から声をかけられると警戒する児童がいてもおかしくない。地域の方を「知らない人」にしない努力をしていく必要を感じている。そのため今年度は、写真の掲示・たてわり清掃、スタンプラリー、子ども郵便などに取り組み触れ合う機会を増やしていった。今後ともご協力をお願いしたい。

4 連絡事項

(1) 学校評価のお願い〈教頭より〉

資料参照

子供郵便でお届けします。

(2) 第4回学校運営協議会開催予定について〈教頭より〉

資料参照

(3) その他の連絡事項

特に無し

給食試食会について

5 閉会のことば 教頭